

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	36時間
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス	19		
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程	20		
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解	21		
	4	自然が生み出す音とどうつづものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解	22		
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)	23		
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)	24		
	7	レポート作成の手引き	25		
	8	レポート指導	26		
	9	レポート指導	27		
	10	レポート指導	28		
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析	29		
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点を置いた分析	30		
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)	31		
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)	32		
	15	リズムと拍子 拍、の実践	33		
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方	34		
	17	科目試験対策	35		
18	科目試験対策	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも補足で共用。五線紙は、五線から書いて音楽理論の基礎知識を身につける。 出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者名	國分 啓子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	子どもは環境の中で様々な事象に出会うことで知的体験を重ね成長していく。子どもの指導「環境」では、保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育における「環境」とは、子どもを取り巻くもの全てである。保育者も自然現象も保育室等も、全て「環境」である。保育者として、こどもの成長発達を促す最適な「環境」を、提供することができる実践力、そして保育室の環境構成をするため、「環境」に着目した指導計画を立案できるようにしていく。				
授業概要	子どもは様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通し人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本授業では、領域「環境」の意義と目的について理解し、環境による保育、こどもが環境と関わりながら好奇心、探求心を育み人間関係を形成しながら成長・発達していく過程を具体的事例を上げながら学習していく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス・保育者の資質とは 保育者に必要なものあなたを取り巻く環境	19		
	2	環境とは (1) 環境という言葉、環境の定義	20		
	3	環境とは (2) 環境を通して行う保育の意味	21		
	4	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容	22		
	5	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方	23		
	6	身近な「環境」の構成(指導案の構成と作成)	24		
	7	子どもと人的環境との関わり(保育者・友だち・家族・地域の人々)	25		
	8	子どもと物的環境との関わり(遊具・園具・文字・数量)	26		
	9	子どもの自然環境との関わり(身近な自然・生き物との関わり)	27		
	10	子どもと空間とのかかわり(室内あそび、保育形態)	28		
	11	子どもの空間とのかかわり(屋外遊び、保育形態)	29		
	12	行事や地域環境との関わり・園外保育	30		
	13	保育における環境の重要性 (1)好奇心 (2)探求心 (3) 思考力の芽生え	31		
	14	子どもと環境 ・ 標識と図形、ものの性質との出会い	32		
	15	指導上の留意点・環境構成の在り方 ・ 子どもの安全環境 ・ 安全管理 ・ 小学校との連携	33		
	16	子どもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題	34		
	17	環境保護の大切さ(連鎖・循環・つながり・相互関係)	35		
18	保育者の役割 環境構成 実際の保育室 デザイン	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程を持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	保育内容総論		担当者名	國分 啓子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選 必選		授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的に捉える視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的援助等について保育の流れを概観し、ある領域に偏って指導されるものではなく、相互に関連をもちながら総合的に展開するものであることを保育実践と結びつけながら学んでいく。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を理解したうえで実践への展開をおこなう。保育現場における保育者の役割に対する理解を深める。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をテキストとして用いながら、これらの園の役割、機能について理解する。さらに領域の捉え方を踏まえた上で、各領域におけるねらいや内容とこどもの発達について理解していく。グループでの取り組みを通して、総合的な指導の必要性についての理解を深め、保育指導計画を立案・展開し、学生による相互評価なども行う。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	保育内容総論とは ① 保育内容総論を考える	19		
	2	保育内容総論とは ② 育みたい資質・能力と幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	20		
	3	保育内容の歴史の変遷 ① 明治・大正・昭和の保育内容	21		
	4	保育内容の歴史の変遷 ② 平成の保育内容の変遷と今後の課題	22		
	5	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ① 幼稚園教育要領	23		
	6	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方 ② 保育所保育指針	24		
	7	改訂(定)された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え ③ 認定こども園教育	25		
	8	レポート作成・指導 ①設題に対する作成の手引き	26		
	9	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ① 乳幼児にとつての園行事の意味と在り方	27		
	10	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容 ② 保幼小の円滑な連携	28		
	11	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ① 環境を通して行う保育	29		
	12	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開 ② 遊びによる総合的な保育	30		
	13	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ① 全体的な計画の作成	31		
	14	全体的な計画の作成と指導計画の作成 ② 指導計画の作成手順と配慮	32		
	15	保育の評価と保育記録 ① 子ども理解(幼児理解)に基づく評価	33		
	16	保育の評価と保育記録 ② 観察記録を書く意味と子ども理解	34		
	17	保育内容の現代的課題について ① 子育て支援	35		
	18	保育内容の現代的課題について ② 特別な配慮を必要とする子どもの保育	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上を基本とし、受講態度やグループワーク、試験結果などを総合的に評価する。合格は60点以上とする。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体験型学習>>				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「造形表現」		担当者名	有元 信幸	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	36時間
授業目的	幼児の造形教育において、子どもの豊かな感性を育むことを、実技を通して体験する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	実技を通してオートマニズムを自己のものにする。				
授業概要	普通授業は幼児教育に関する一級美術、スクーリングでオートマニズムを習得する。				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	自己紹介・名刺・自画像制作	19		
	2	消しゴムはんこ・落款制作	20		
	3	レポート講義・作成手引き	21		
	4	魚のデザイン制作	22		
	5	絵葉書・絵葉書制作	23		
	6	色相環学習・制作	24		
	7	構成図学習・制作	25		
	8	オリジナル折り紙制作	26		
	9	手のデザイン制作	27		
	10	子どものいる風景・デッサン	28		
	11	案内状・プログラム制作	29		
	12	ピクトグラム制作	30		
	13	十二支のデザイン制作	31		
	14	年間行事・催事デザイン制作	32		
	15	試験対策授業	33		
	16	まとめ	34		
	17	まとめ	35		
18	まとめ	36			
成績割合	テスト	20%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	40%	成績評価	出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>0% A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	1991年より毎年個展開催。(油彩・コラージュ作品)				

シラバス

科目名	こどもの指導法「人間関係」		担当者名	國分 啓子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期	必選	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	こどもを取り巻く人間関係の現状を伝え、発達の過程において人と関わる力の育ちの重要性を説明する。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に記される領域「人間関係」と他領域の関連性を説明し、事例に学びながら総合的に保育を捉える力の習得を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人の豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが人的、物的環境にかかわり、主体的に活動することや互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基礎の習得を目的とする。				
授業概要	こどもたちを取り巻く「人間関係」の在り方や「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。また、保育者としてこどもとの様々な関係性を築いていくのか、こども一養育者、こども一保育者、保育者一養育者、さらには保育者一保育者という様々な関係性について考察して行く。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	領域「人間関係」のねらいと内容・内容の取扱い	19		
	2	保育の基本と人との関わり ・ 人との関わりを基礎を育てる	20		
	3	保育の基本と人との関わり ・ 基本的な信頼関係と人的環境	21		
	4	乳幼児期における人との関わり発達 ・ 保育者の役割と援助①	22		
	5	乳幼児期における人との関わり発達 ・ 乳児期の発達と人間関係	23		
	6	乳児期における人との関わり発達 ・ 幼児期の発達と人間関係	24		
	7	遊びの中で育つ人との関わり ・ 人との関わりと遊び	25		
	8	遊びの中で育つ人との関わり ・ 遊びの中で人間関係	26		
	9	遊びの中で育つ人との関わり ・ 10の姿に育ってゆく過程	27		
	10	遊びの中で育つ人との関わり ・ 保育者の役割と援助②	28		
	11	人との関わりを育てる保育の実践 ・ 保育者の役割と援助③	29		
	12	人との関わりを育てる保育実践 ・ 人と関われない子どもたち/人と関わる力が育っていくプロセス	30		
	13	人との関わりを育てる保育実践 ・ モデルとしての保育者/援助者としての保育者	31		
	14	人との関わりが難しい子どもの支援 ・ 保育者の役割と援助④	32		
	15	人との関わりが難しい子どもの支援 ・ 人との関わりが難しい子を支援する/さまざまな連携	33		
	16	園、家庭、地域の生活と人との関わり ・ 保育者の役割と援助⑤	34		
	17	園、家庭、地域の生活と人との関わり ・ 子どもの生活と人との関わり	35		
	18	地域の人々や小学校との交流を導く保育計画 ・ 情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育など	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P≪課題解決型学習≫60% R≪実働実践型学習≫20% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	乳幼児保育 I		担当者名	河野 亮子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位	2単位	開講期	必選	授業時間数	36時間
開講学年	2学年	必・選			
授業目的	3歳未満児の保育・保育の重要性について理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1. 乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷及び背景と制度について理解する。 2. 保育所、家庭的保育等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳幼児保育における職員間の連携・協働及び保護者や関係機関との連携について理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴等、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解出来るようにする。 人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	乳幼児保育の意義・概念と歴史の変遷	19		
	2	乳幼児保育の一般化への経緯	20		
	3	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援	21		
	4	レポート指導①	22		
	5	レポート指導②	23		
	6	保育所における乳幼児保育	24		
	7	乳幼児保育と子育て支援	25		
	8	家庭的保育等における乳幼児保育	26		
	9	3歳未満児の生活と環境	27		
	10	3歳未満児の遊びと環境	28		
	11	保育所保育指針における3歳未満児の保育①	29		
	12	保育所保育指針における3歳未満児の保育②	30		
	13	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等の関わり方	31		
	14	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	32		
	15	乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義	33		
	16	職員間の連携・協働	34		
	17	保護者との連携・協働	35		
	18	1回目～17回目の振り返り・科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験をもち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	保育原理		担当者名	河野 亮子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育に関する基本的知識等、保育全般について理解する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追求する。				
授業概要	子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には、保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育における様々な課題に関する認識を深める。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	保育とは何か① 保育の意義と目的	19		
	2	保育とは何か② 子どもの最善の利益を考慮した保育・保育者との協働	20		
	3	保育とは何か③ 保育の社会的意義・保育所保育と家庭的保育	21		
	4	レポート指導①	22		
	5	レポート指導②	23		
	6	保育所保育指針における保育の基本①	24		
	7	保育所保育指針における保育の基本②	25		
	8	保育所保育指針における保育の基本③	26		
	9	保育の質を高めるための方法①	27		
	10	保育の質を高めるための方法②	28		
	11	保育の質を高めるための方法③	29		
	12	保育の思想と歴史の変遷・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展	30		
	13	保育の思想と歴史の変遷・我が国における保育の歴史の変遷	31		
	14	保育の制度・保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業①	32		
	15	保育の制度・保育所、幼稚園、認定こども園、家庭的保育事業②	33		
	16	保育の現状と課題①	34		
	17	保育の現状と課題②	35		
18	1回～17回の授業の振り返り・科目試験	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89点 B79～70 C69～60点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	担当教員は保育園・幼稚園の勤務を経て、地元の子育て支援サークルの運営にも携わる経験を持ち、他の専門学校でも教鞭を取っている。				

シラバス

科目名	社会福祉論		担当者名	津村 恵子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	36時間
授業目的	保育士として必要な社会福祉に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、子どもとその家庭を支援する視点から、制度・方法等について学ぶ				
授業概要	基本的知識を講義形式で学び、具体的事例を用いたワーク及びディスカッションを通し、福祉の今日的課題について考察する				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	社会福祉とは ～身近な問題から福祉を考える	19		
	2	社会福祉の理念・基本的人権	20		
	3	日本における貧困問題(子どもの貧困)①	21		
	4	日本における貧困問題(子どもの貧困)②	22		
	5	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)①	23		
	6	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)②	24		
	7	レポート作成の手引き①	25		
	8	レポート作成の手引き②	26		
	9	レポート指導	27		
	10	障害者福祉	28		
	11	共生社会とインクルーシブ保育	29		
	12	女性の社会参加について 現状と課題	30		
	13	高齢者福祉	31		
	14	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	32		
	15	子どもの人権	33		
	16	社会福祉の専門職	34		
	17	社会福祉の動向と課題	35		
18	科目試験	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に必要内容をクラスで共有する	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験があり、地域の障がい児者支援活動等に尽力している。				

シラバス

科目名	こども家庭福祉		担当者名	津村 恵子	
学 科	教育専攻科幼稚園教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 2学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育士として必要な「こども家庭福祉」に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの人権、こども家庭福祉の意義、役割、制度や関係機関の実施体制について学習する。 併せて、こども家庭福祉の現状と課題について考察する。				
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、こども家庭福祉の様々な今日的課題について、保育士の視点から考察していく。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	現代社会における子どもを取り巻く社会状況①	19		
	2	現代社会における子どもを取り巻く社会状況②	20		
	3	こども家庭福祉の理念①	21		
	4	こども家庭福祉の理念②	22		
	5	子どもの権利 人権擁護と課題	23		
	6	レポート作成の手引き	24		
	7	レポート指導	25		
	8	こども家庭福祉の制度と実施体制	26		
	9	児童福祉に関する機関と専門職	27		
	10	児童福祉施設と専門職	28		
	11	こどもの虐待について	29		
	12	障がいのある子どもへの対応	30		
	13	少年非行などへの対応	31		
	14	社会的養護	32		
	15	貧困家庭、ひとり親家庭など、様々な家庭への対応	33		
	16	母子保健と子どもの健全育成	34		
	17	多様な保育ニーズ 地域の子育て支援	35		
	18	科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	保育内容(人間関係Ⅱ)		担当者名	國分啓子	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期	必・選 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	「こどもと環境」は、子どもに環境とかかわる力を育てるという始点から、その内容や方法を考えようとするものであり、まず基本的な内容の理解が必要です。我が国の子どもの育成環境が大きく変化する中、社会環境という広い視点から保育の内容、領域、保育者の役割、そして教育要領、保育指針の基本的事項の理解を踏まえた上で、領域「環境」との関連性や子どもの育ちについて学んでいきます。これからの環境教育、保育はどうかあるべきか、実践事例も取り上げながら学びます。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	幼稚園、保育所の教育の基本的理念は、乳幼児が遊びを通して環境とかかわり、人間として生きる基礎となる力を身につけ、自己を形成することにあります。子どもの生活の場としての環境のあり方や、周囲の様々な環境に対して好奇心や探究心をもち、それらを生活や遊びのなかに取り入れるには、保育者としてどのような援助が必要かを理解することを目標としています。子どもたちの健やかな発達を支援し保障するために、環境教育はどうかあるべきかを考えていきます。				
授業概要	乳幼児期の人間関係の重要性を理解し、生活場面における幼児のさまざまな「人とかかわり」とその育ちに対して領域「人間関係」における基礎知識を学ぶ。教育の場で、一人ひとりが大切にされ、子ども理解を深めながら保育内容を具体的に考え、さらに互いが豊かなかかわり合いがもてるような集団を形成するには、どのような課題があるのかを、保育における人間関係をさまざまな側面から考察し、事例をもとに子ども理解を深めながら進める。				
授 業 計 画 表	授 業 内 容		授 業 内 容		
	1	オリエンテーション	19		
	2	幼児教育の基本／領域「人間関係」の解説 本授業の進め方と授業への取り組み／幼児教育の基本／領域「人間関係」のねらいと内容	20		
	3	幼児を取り巻く環境と人間関係 幼児を取り巻く環境に変化／幼児教育、領域「人間関係」の基礎知識	21		
	4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」人とかかわりの素地になっているもの／乳児の育ちと人間関係	22		
	5	園生活と人とかかわり・人との関わりを見る視点 園という場での生活／保育者や他の職員とのかかわり／友達と生活／保育内容・環境	23		
	6	人とかかわる楽しい遊び・模擬保育・指導案作成 人減関係を育む遊び(実技)／グループによって互いの気づかいを発表する	24		
	7	模擬保育の計画・指導案作成 遊びの中での人との関わりを考慮した遊び／幼児の年齢に合った遊び／模擬保育の指導案作成	25		
	8	模擬保育 遊びのイメージを伝えるっ／立案、実践した遊びについて振り返る	26		
	9	幼児向きのいざこざ葛藤の意味 幼児にどつてのいざこざの意義／保育者の援助／事例を通して学ぶ保育者の関わり	27		
	10	模擬保育 立案、実践した遊びについて振り返る	28		
	11	自己主張と自己抑制・個と集団の育ち 幼児の自己主張と自己抑制の発達 自己調整力を育むための保育者の関わり	29		
	12	規範意識と道徳性の芽生え・保護者対応 幼児の道徳性の基盤／幼児同士のいざこざと葛藤の中で学ぶ／ルールの大切さに気づく	30		
	13	協同する体験の教育的意義と保育者の援助 協同したくなる遊び／園生活と協同性の育ち／協同性で育まれるもの／小学校教育との接続	31		
	14	幼児を取り巻く人間関係ー地域社会の役割 近隣の人とかかわり／公共のために働く人々とかかわり	32		
	15	幼児を取り巻く人間関係ー保護者支援・子育て支援 乳幼児をめぐる家庭の人間関係の変化と子育て支援	33		
	16	人とかかわりを育てる保育者の役割 保育者としての援助の基本／家庭や地域との人間関係	34		
	17	まとめ	35		
18	まとめ	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>60% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>20% G<海外体験型学習>				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	国語 I		担当者名	松山 宏樹	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開講期 必・選	前期 選択	授業時間数	36時間
授業目的	日本が中国から言語の面、文化の面において大きな影響を受けていることを理解し、現代の日本語の特徴を把握することを目的とします。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本語の形成過程と変遷過程を概観し、基本的な文法や敬語の知識を確認します。そして、臨界期・言語能力・語彙といった領域まで説明できるようにすることを目標とします。				
授業概要	基本的なテキストを手がかりに、具体的な例を考えながら日本語の特徴を学びます。その後、それらをレポートにまとめて考察を深めていきます。また、日本語を他の言語と比較することでその特徴を明確にします。				
授業 計画 画 表	授業内容			授業内容	
	1	講義の概要を把握すること	19		
	2	テキストの理解と調べ学習	20		
	3	テキストの理解と調べ学習	21		
	4	テキストの理解と調べ学習	22		
	5	テキストの理解と調べ学習	23		
	6	テキストの理解と調べ学習	24		
	7	テキストの理解と調べ学習	25		
	8	テキストの理解と調べ学習	26		
	9	テキストの理解と調べ学習	27		
	10	テキストの理解と調べ学習	28		
	11	テキストの理解と調べ学習	29		
	12	テキストの理解と調べ学習	30		
	13	テキストの理解と調べ学習	31		
	14	テキストの理解と調べ学習	32		
	15	テキストの理解と調べ学習	33		
	16	テキストの理解と調べ学習	34		
	17	テキストの理解と調べ学習	35		
	18	まとめ	36		
成績割合	テスト	40	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	20			
	レポート	40	成績評価	出席率80%以上、S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>70 A<<主体的参加型学習>>70 G<<海外体感型学習>>50				
講師プロフィール	担当教員は約30年間、大学生の授業を行ってきました。多くの先生を育てた経験を反映させたいと思います。				

シラバス

科目名	理科指導法		担当者名	三井 寿哉	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	教材研究を通して子供の興味・関心を高める理科の授業づくりを行う。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	理科の目標を理解し、問題解決学習に沿った学習指導を作り、導入から問題が得られるような教材提示を工夫するための教材研究について考えることができる。				
授業概要	小学校理科の指導に必要な基本的な見方・考え方、技能等、留意点などを実践的に学ぶ。理科の授業では実験・観察や飼育・栽培を通して、子どもたちに発見する喜びや科学的な思考力を養わせることが大切である。従って、教材研究の仕方、授業の展開方法、学習指導案の作成の仕方などを修得し、理科教員としての心構えや実践力を身につける。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	問題解決型の学習展開を軸とした理科の授業づくりについて考える。	19		
	2	理科の各領域における見方・考え方についての特徴について考える。	20		
	3	各学年の発達にあった問題解決の育成について授業展開例を基に考える。	21		
	4	科学的な概念、誤概念を軸に、概念形成とその枠組みについて整理する。	22		
	5	主体的な問題の見出し方について、授業例を基に発問の仕方や教材提示について考える。	23		
	6	ふりこの運動の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	24		
	7	風とゴムの性質の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	25		
	8	ものと重さの学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	26		
	9	ものの溶け方の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	27		
	10	季節と生き物の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	28		
	11	生物と環境の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	29		
	12	太陽の動きの学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	30		
	13	雨水の行方の学習展開について、探究的な活動につながるための教材研究を行う。	31		
	14	これまでの教材研究で得たデータをまとめ、指導計画を作成する。	32		
	15	現代における理科教育の諸課題について触れ、自分自身の新たな課題をもつ。	33		
	16	振り返り、レポートを作成する。	34		
	17	振り返り、レポートを作成する。	35		
18	振り返り、レポートを作成する。	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>50% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>30% G<海外体感型学習>0%				
講師プロフィール	現在、東京学芸大学附属小金井小学校で学級担任を行いながら、理科や生活科の実践研究を行っている。また理科教育を中心とした研究活動にも携わっている。				

シラバス

科目名	特別支援論Ⅱ		担当者名	津村 恵子	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	36時間
授業目的	特別なニーズのある子どもを含め、全ての子どもの発達を支える為に必要な知識と、支援方法について学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	特別支援の基本的な考え方を理解する。 個々のニーズに応じた様々な支援の展開について学ぶ。 外国につながるのある子ども、貧困などの問題を抱える子どもの生活や困難、支援について学ぶ。				
授業概要	必要な知識を講義形式で学び、具体的実践事例を用いた個人ワーク、及びディスカッションを通し、支援について考察していく。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19		
	2	発達を支える様々なアプローチ①(感覚統合療法)	20		
	3	発達を支える様々なアプローチ②(感覚統合療法)	21		
	4	発達を支える様々なアプローチ③(TEACCHプログラム)	22		
	5	発達を支える様々なアプローチ④(TEACCHプログラム)	23		
	6	発達を支える様々なアプローチ⑤(ABA)	24		
	7	発達を支える様々なアプローチ⑥(インリアルアプローチ)	25		
	8	こどもの家族への理解と支援	26		
	9	特別支援教育／保育について①(基本的な考え方)	27		
	10	特別支援教育／保育について②(個別支援計画・職員間の協力・他機関連携)	28		
	11	特別な配慮を必要とする子どもの保育／教育 事例学習①	29		
	12	特別な配慮を必要とする子どもの保育／教育 事例学習②	30		
	13	特別な配慮を必要とする子どもの保育／教育 事例学習③	31		
	14	外国につながるのある子ども、貧困等の問題を抱える子どもについての支援①	32		
	15	外国につながるのある子ども、貧困等の問題を抱える子どもについての支援②	33		
	16	振り返り／ 科目試験	34		
	17	まとめ	35		
18	まとめ	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと／質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>10% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	特別支援論 I		担当者名	津村 恵子	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	障がい児保育／教育の理念を理解し、障がい児及び配慮の必要な子どもとその家庭への支援について学ぶ				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	障害児保育／教育の理念について学ぶ 障がい児、及び特別な配慮を必要とする子どもの特性や心身の発達を理解する 個別支援計画作成の仕方、具体的支援方法について理解する				
授業概要	障がい児保育／教育を行なう上で、必要な基本的知識を講義形式で学び、具体的実践事例を用いて、個人ワーク及びディスカッションを通しこどものニーズの応じた支援について考察していく				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション	19		
	2	障がい児保育／教育における理念①	20		
	3	障がい児保育／教育における理念②	21		
	4	障害の概念①	22		
	5	障害の概念②	23		
	6	自閉スペクトラム症の子どもの特性と支援①	24		
	7	自閉スペクトラム症の子どもの特性と支援②	25		
	8	学習障がいの子どもの特性と支援①	26		
	9	学習障がいの子どもの特性と支援②	27		
	10	知的障がいの子どもの特性と支援①	28		
	11	知的障がいの子どもの特性と支援②	29		
	12	肢体不自由の子どもの特性と支援①	30		
	13	視覚障がい、聴覚障がいの子どもの特性と支援	31		
	14	言語障がいについて	32		
	15	病弱／身体虚弱について	33		
	16	振り返り／ 科目試験	34		
	17	まとめ	35		
18	まとめ	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障がい児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	生活		担当者名	三井 寿哉	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	幼児期、児童期の活動を基底とした生活保育・生活科の考えていく。また、小学校生活の全体像を踏まえたうえでの教師の役割を学ぶ。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携の意義を理解することができる。 ・生活科の意義、歴史等を理解することができる。 ・教科目標・学年目標・内容を理解できる。 				
授業概要	小学校入学前の保育所・幼稚園の生活保育の内容とともに、生活環境の問題点、遊びの意義の把握、遊びについての理論と実践、遊びを中心とした保幼小連携の意義の概説を行う。また、生活科誕生の意義、歴史を学びながら、生活科改訂の趣旨とともに、教科目標、学年目標及び9つの内容の具体例などの理解とともに、教材等についての実践的研究を行い、その理解を図る。そして、第3学年以降の社会科、理科及び総合的な学習の時間へのスムーズな接続にも追究していく。				
授業計画表	授業内容		授業内容		
	1	生活科が開設されるに至った背景を学び、学習指導要領が改訂されていた経緯について、そのころの子供の様子や教育について考える。	19		
	2	生活科が新設される様子や、期待されていた側面について考える。	20		
	3	生活保育について学び、保育との違いについて考える。	21		
	4	就学前にどのような経験を積み、子どもは何を有しているのかについて考える。	22		
	5	ここまで学んだり考えたりしたことをレポートとしてまとめる。	23		
	6	生活科の内容について、授業例を参考にしながら具体的に考えを広げる。	24		
	7	学習指導要領に明示される教科目標の意味や学年の目標が示す役割について考える。	25		
	8	生活科の特質について学び、生活科の内容とその子供の活動について考える。	26		
	9	内容構成の意味を知り、その系統性や関連性について考える。	27		
	10	指導計画を作成する意義を知り、授業実践例から生活科で大事とされているものについて考える。	28		
	11	ここまで学んだり考えたりしたことをレポートとしてまとめる。	29		
	12	教師の役割、個の支援にて学び、学習環境の組み立て方について考える。	30		
	13	子どもが主体的に活動できるための環境や、学びにつながるための教師の手立てについて考える。	31		
	14	生活科における評価の方法について学び、実践事例を基にしながら評価を試みる。	32		
	15	指導と評価の一体化について学び、生活科における教師の指導改善について考える。	33		
	16	これまでの授業を振り返り、レポートにまとめる。	34		
	17	これまでの授業を振り返り、レポートにまとめる。	35		
18	これまでの授業を振り返り、レポートにまとめる。	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上、S90～100点 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>30% G<<海外体感型学習>>0%				
講師プロフィール	現在、東京学芸大学附属小金井小学校で学級担任を行いながら、理科・生活科の専科も担当している。また理科教育を中心とした研究にも携わっている。				

シラバス

科目名	社会科指導法		担当者名	松山 宏樹	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	教材研究と実践する授業を関連させて理解できることを目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	指導案が作成でき、実際の授業がイメージできるようにすることを目標とします。				
授業概要	新しい学習指導要領の内容を確認した上で、学習指導案の作成の仕方を学びます。その後小学校社会科教科書と副教材を活用した、学生同士の模擬授業を通して優れた指導法の分析・検討をしていきます。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	授業の概要理解	19		
	2	教科書での理解と調べ学習	20		
	3	教科書での理解と調べ学習	21		
	4	教科書での理解と調べ学習	22		
	5	グループでの指導案作成	23		
	6	グループでの指導案作成	24		
	7	グループでの指導案作成	25		
	8	グループでの指導案作成	26		
	9	授業実践と評価	27		
	10	授業実践と評価	28		
	11	授業実践と評価	29		
	12	授業実践と評価	30		
	13	授業実践と評価	31		
	14	授業実践と評価	32		
	15	授業実践と評価	33		
	16	授業実践と評価	34		
	17	授業実践と評価	35		
18	まとめ	36			
成 績 割 合	テスト	25	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	50			
	レポート	25	成績評価	出席率80%以上 S90～100 A80～89 B70～79 C60～69 D59以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70 R<<実働実践型学習>>80 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>20				
講師プロフィール	担当教員は約30年間、大学生の授業を行ってきました。多くの先生を育てた経験を反映させたいと思います。				

シラバス

科目名	社会		担当者名	松山 宏樹	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	20世紀初頭のアメリカの社会背景、第2次世界大戦後に成立した日本の社会背景を理解し、社会科の特色を理解することを目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	社会科がアメリカで成立した過程を理解し、日本における成立過程と変遷過程を概観します。そして新学習指導要領のポイントを確認し、「問題解決」「理解」「説明」「議論」の社会科論を理解することを目指します。				
授業概要	テキストを使って基本的な授業方法を学び、グループディスカッションを通して具体的な授業展開について検討します。その後、それらをレポートにまとめて考察を深めていきます。また、到達度評価と観点別評価の特徴を明確にします。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	授業の概要理解	19		
	2	テキストの理解と調べ学習	20		
	3	テキストの理解と調べ学習	21		
	4	テキストの理解と調べ学習	22		
	5	テキストの理解と調べ学習	23		
	6	テキストの理解と調べ学習	24		
	7	小学校の教科書を使っての指導法検討	25		
	8	小学校の教科書を使っての指導法検討	26		
	9	小学校の教科書を使っての指導法検討	27		
	10	小学校の教科書を使っての指導法検討	28		
	11	小学校の教科書を使っての指導法検討	29		
	12	小学校の教科書を使っての指導法検討	30		
	13	小学校の教科書を使っての指導法検討	31		
	14	小学校の教科書を使っての指導法検討	32		
	15	テキストの理解と調べ学習	33		
	16	テキストの理解と調べ学習	34		
	17	テキストの理解と調べ学習	35		
18	まとめ	36			
成績割合	テスト	40	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	20			
	レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100 A80～89 B70～79 C60～69 D59以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70 R<<実働実践型学習>>70 A<<主体的参加型学習>>70 G<<海外体感型学習>>50				
講師プロフィール	担当教員は約30年間、大学生の授業を行ってきました。多くの先生を育てた経験を反映させたいと思います。				

シラバス

科目名	国語科指導法		担当者名	松山 宏樹	
学 科	教育専攻科小学校教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	教材研究と実践する授業を関連させて理解できることを目指します。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	指導案が作成でき、実際の授業がイメージできるようにすることを目標とします。				
授業概要	新しい学習指導要領の内容を確認した上で、学習指導案の作成の仕方を学びます。その後小学校国語の教科書を活用した、学生同士の模擬授業を通して優れた指導法の分析・検討をしていきます。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 授業概要の理解	19		
	2	学習指導要領① 教科書での理解と調べ学習	20		
	3	学習指導要領② 教科書での理解と調べ学習	21		
	4	学習指導要領③ 教科書での理解と調べ学習	22		
	5	教材研究と指導案作成① グループでの指導案作成	23		
	6	教材研究と指導案作成② グループでの指導案作成	24		
	7	教材研究と指導案作成③ グループでの指導案作成	25		
	8	教材研究と指導案作成④ グループでの指導案作成	26		
	9	模擬授業① 模擬授業の実践と評価	27		
	10	模擬授業② 模擬授業の実践と評価	28		
	11	模擬授業③ 模擬授業の実践と評価	29		
	12	模擬授業④ 模擬授業の実践と評価	30		
	13	模擬授業⑤ 模擬授業の実践と評価	31		
	14	模擬授業⑥ 模擬授業の実践と評価	32		
	15	模擬授業⑦ 模擬授業の実践と評価	33		
	16	模擬授業⑧ 模擬授業の実践と評価	34		
	17	模擬授業⑨ 模擬授業の実践と評価	35		
	18	まとめ	36		
成績割合	テスト	40	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	20			
	レポート	40	成績評価	出席率80%以上 S90～100 A80～89 B70～79 C60～69 D59以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>70 R<<実働実践型学習>>80 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	担当教員は約30年間、大学生の授業を行ってきました。多くの先生を育てた経験を反映させたいと思います。				

シラバス

科目名	救急処置法Ⅲ		担当者名	石井 英一	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	実習	
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間
開講学年	3学年	必・選			
授業目的	水辺における活動の中で自らの安全を確保し、ライフセービングの基礎となる知識と技能を備え、事故防止に積極的に貢献できる人材を育成することを目的とする。 教育活動に係るすべての方々に参考にしてみたい				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	日本ライフセービング協会のウォーターセーフティ資格の取得を目指す				
授業概要	「危機回避能力」を身につける一方で、指導的な立場にある方(教員や水泳インストラクター、各種マリンスポーツインストラクター等)にとっては、実践的なプログラムとしての展開、運用につながる水辺の安全基礎資格です。 水辺における活動において危険な状況にならないように、楽しみながら安全を考えて行動できる能力を身につける。 教育活動に係るすべての方々に参考にしてみたい、事故防止の一助としてもらいたい。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	ガイダンス	19		
	2	ウォーターセーフティの意義	20		
	3	水の特性と事故要因	21		
	4	海辺・河川などでの事故要因	22		
	5	プールでの事故要因	23		
	6	ウォーターセーフティプログラムの実際①	24		
	7	ウォーターセーフティプログラムの実際②	25		
	8	ウォーターセーフティプログラムの実際③	26		
	9	ウォーターセーフティプログラムの実際④	27		
	10	ウォーターセーフティプログラムの実際⑤	28		
	11	学校教育とウォーターセーフティ 学校教育におけるライフセービングの位置づけ	29		
	12	体育授業における水泳の歴史と背景	30		
	13	体育授業における水泳の課題 安全確保につながる運動	31		
	14	日本に求められる水辺教育の在り方とは	32		
	15	学科テスト	33		
	16	学科テスト	34		
	17	まとめ	35		
18	振り返り	36			
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	成績表の送付	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート	20%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 59点以下は不合格出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30 R<<実働実践型学習>>30 A<<主体的参加型学習>>30 G<<海外体感型学習>>10				
講師プロフィール	早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科卒業 公益財団法人 日本ライフセービング協会 指導員 日本赤十字社 指導員				

シラバス

科目名	キャリア支援Ⅲ		担当者名	折田 勝利	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	社会人となる上での基礎力構築				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	1. 実務を遂行する基礎能力や技術の習得 2. ビジネススキルの自己認識とスキルアップに向けた意欲向上				
授業概要	1. 年間を通じ「ON DEMAND授業」とする。理解度等評価はTEAMS・アンケート機能を活用 2. ビジネススキルの概要理解と個別スキルのブラッシュアップ、更に自己評価による現状スキルの把握 3. 講話聴講、報告書作成、活動計画書の作成などを通して、対人スキル、目標達成スキル 問題解決スキルを習得し、実社会で使えるスキルを習得する。				
授業 計 画 表	授業内容		授業内容		
	1	オリエンテーション (概要とスキル習得目的の把握)	19	目標達成・問題解決能力UP(思考) ① ロジカルシンキング、② クリティカルシンキング ③ ラテラルシンキング	
	2	ビジネスマナーとビジネススキル (相違の理解)	20	目標達成・問題解決能力UP(目標管理) ① 進捗管理する力、② 軌道修正する力、③ 次回に活かす力	
	3	3つのスキル/①テクニカルスキル	21	目標達成・問題解決能力UP(タスク管理) ① 具体的にやるべきことをできるだけ細かく分解する ② 重要度や緊急度の二軸に沿って	
	4	3つのスキル/②ヒューマンスキル	22	目標達成・問題解決能力UP(時間管理) ① 所要時間を正確に見積もる、② 仕事の優先順位をつける ③ 予備の時間を取る	
	5	3つのスキル/③コンセプトスキルのスキル	23	目標達成・問題解決能力UP(活動計画案策定) ① 目標設定、②スケジュール策定、③変更管理、④評価	
	6	コミュニケーション能力UP(伝達) ① 聞く力、② 理解する力、③ 伝える力	24	プレゼンテーション能力UP① ① 分かりやすくまとめる力、② 聞きやすく話す力 ③ 話に説得力をもたせる力	
	7	コミュニケーション能力UP(会話) ① つかむ力、② 引き込む力、③ 印象づける力	25	プレゼンテーション能力UP② ① 資料作成、②話し方	
	8	コミュニケーション能力UP(質問) ① オープン・クエスチョン、② クローズド・クエスチョン	26	プレゼンテーション能力UP③	
	9	コミュニケーション能力UP(交渉) ① 情報収集力、② 相手のこだわりを見抜く力 ③ 実権者や味方を見つける力、④ 落としどころ	27	文章作成能力UP実習③	
	10	コミュニケーション能力UP(販売) ① ニーズを覚醒する力、② 説明・応酬する力 ③ 商談を締結する力	28	ビジネススキル向上に向けた自己啓発 (自己のスキルアッププランの策定)	
	11	文章作成能力UP ① 議事録、②出張報告、③ 指示、連絡	29	文章作成能力UP実習(③評価結果)	
	12	理解度アンケート①集計結果発表 理解度向上講義	30	企業が求める人材① (選ばれる人材像)	
	13	文書作成能力UP(伝達/実習①) (電力需給とエネルギー基本計画)	31	前期総合テスト評価結果	
	14	文書作成能力UP(伝達/実習①) (電力需給とエネルギー基本計画)	32	後期総合テスト評価結果	
	15	文書作成能力UP(伝達/実習②) (DX/デジタルトランスフォーメーションの現状)	33	振り返り	
	16	文章作成能力UP実習②評価結果 飲みにケーションをどう考える	34	まとめ	
	17	目標達成・問題解決能力UP(PDCAをまわせ！) (現状把握～原因究明～対策～評価)	35	まとめ	
18	目標達成・問題解決能力UP(目標設定) ① 今の実力を知る力、② 適切な目標を設定する力 ③ 評価基準を明確にする力	36	まとめ		
成績割合	テスト	60%	学習FB方法	学期ごとに成績送付	
	学習態度・出席率	20%			
	レポート	20%	成績評価	出席80%以上 S90～100点、A80～89点、B70～79点、 C60～69点、D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>50% R<実働実践型学習>20% A<主体的参加型学習>20% G<海外体感型学習>10%				
講師プロフィール	元鉄鋼会社・会社員 工場部門:13年、営業部門:18年(含む大阪勤務:5年)、事業・管理部門:9年 現在:日本鍛造協会 研修教育委員				

シラバス

科目名	データサイエンスⅢ		担当者名	園田 博	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開講期 必・選	必選	授業時間数	36時間
授業目的	「DX・データサイエンス・データサイエンティストとは何かを知識体感する」				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	「これからのグローバル社会で社会人となるための基礎を知る」				
授業概要	「皆さんが卒業後ビジネスの目標を持ってビジネス社会に貢献できるためのリテラシーを提供」 前期「DXについて」 後期「データサイエンス・データサイエンティストについて」				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	RPAについて	
	2	オリエンテーション2	20	プログラミング言語とは①初期	
	3	オリエンテーション3	21	プログラミング言語とは②中期	
	4	DXについて①DXとは	22	プログラミング言語とは③現在	
	5	DXについて②レガシーシステムとは	23	プログラミング言語とは④これから	
	6	DXについて②レガシーシステムとは	24	プログラミング言語とは⑤チェックポイント	
	7	DXについて④企業がDXに取り組む理由	25	データサイエンスとは	
	8	DXについて⑤生産性の向上	26	データサイエンティストとは	
	9	DXについて⑥業務効率の向上	27	データベースとは	
	10	DXについて⑦企業の継続的な成長	28	インフラとは	
	11	DXについて⑧DX化にあたっての課題	29	ハードとは	
	12	DXについて⑨経営の在り方と仕組み	30	ビジネスの環境は	
	13	DXについて⑩基盤となるITシステムの構築	31	最後のチェックポイント①	
	14	DXについて⑪DXの成功事例a	32	最後のチェックポイント②	
	15	DXについて⑫DXの成功事例b	33	対面(仮)	
	16	DXについて⑬新しいビジネスシーンの創出	34	確認テスト・まとめ1	
	17	DXについて⑭チェックポイント	35	確認テスト・まとめ2	
	18	DXについて⑮対面(仮)	36	確認テスト・まとめ3	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	成績表の送付	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 59点以下は不合格出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>> R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>> G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	明治生命保険相互会社(現明治安田生命)システム部、The Meijiseimei Asset Management of America INC(NY)、ヤマトロジスティクス(株)で、汎用コンピュータシステム・Openシステム開発、生命保険拠点長、DXのエバンジェリストを副社長、PM、ソリューションコンサルタントの立場で遂行。現在、IT企業取締役、DXのProject代表取締役、日本アクチュアリー协会会员、ITPS(日本経営協会)、システム監査人、公的保険アドバイザー				

シラバス

科目名	グローバルマーケティングⅢ		担当者名	柳町 啓介	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 3学年	開講期 必・選 選択		授業時間数	36時間
授業目的	国内・国外の違い、業界や企業規模の違いを越えた地球的な視座から、普遍的なマーケティング理論の基礎を理解する。 時代を超えても色褪せることのないマーケティング実践の知恵を習得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	上記の理論と実践に裏打ちされたマーケット志向(Market-Oriented)の感覚を身に着けた上で、売り手(作り手)として顧客と向き合う真摯な態度や人間的な眼差しを涵養すること。現実的にマーケットで受け入れられそうな製品やサービス(Products)を試作し得る水準に到達すること。				
授業概要	グローバル企業のマーケティング実例を通して、現場の問題を克服し目標を達成し成功若しくは失敗した例を平易に分かりやすく説明する。併せてマーケティングの専門用語に親しめるように実例に基づき具体的に説明し、マーケティング理論が自ずと理解できるような組み立てとする。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	自己紹介 マーケットとは？ 認知症グループホームを立ち上げて新たなマーケットを創造した自身の実績紹介	19	セグメンテーションとは (セグメンテーションをする理由、視点、レベル)	
	2	顧客の創造 Create Customers	20	セグメンテーション変数 (地理的変数、人口統計的変数、社会文化的変数、心理的変数、行動的変数)	
	3	顧客志向、マーケット志向Customer-Oriented, Market-Oriented,	21	ターゲティング のメリットとデメリット 複数セグメントの選択	
	4	先行型/反応型市場志向、創造的適応、消費者洞察力、潜在需要の掘り起こし	22	ポジショニングの本質 (必要性、継続性、「位置取り」)	
	5	マーケティング・マイオピア(近視眼)、創造性に向けての模倣、マーケティングの構図(サンリオ)	23	消費者の情報遮断とリ・ポジショニングの難しさ (消費者に受け入れられ易い情報、発信者の信頼性)	
	6	顧客価値(機能的価値、感覚的価値、経験価値、文脈価値)	24	リ・ポジショニングの方法	
	7	S-Dロジック(サービス・ドミナント・ロジック)の概要 (IoT、インダストリー4.0、マスカスタマイゼーション)	25	ターゲティングとポジショニング (セグメンテーション・ターゲティング とポジショニングの関係)	
	8	S-Dロジックのビジネスモデル (アマゾンの電子書籍タブレットであるキンドルの実例、 オーダーメイド服の実例、可食印刷機の実例)	26	ポジショニングの実施 (特化すること、独自性、コンセプトの継続性)	
	9	マーケティング・マネジメント・プロセス (分析、目標、セグメンテーション、ターゲティング)	27	マーケティング・ミックス (4つのP)	
	10	マーケティング・マネジメント・プロセス (ポジショニングとマップ、差別化、マーケティングミックス、 実行、統制)	28	製品のマネジメント (製品に含まれる要素、製品ミックス)	
	11	マーケティングの補完的視点 (ブランディング、顧客満足、顧客維持、顧客ロイヤリティ、 リレーションシップ)	29	価格のマネジメント (価格に含まれる要素、価格の意味、価格の変更、ニーズと価格)	
	12	経営的マーケティングとマーケティング・マネジメントの関係 (イケアの実例) マーケティング環境の分析(コカコーラの実例)	30	コミュニケーションのマネジメント (マーケティング・コミュニケーションの重要性、広告、販売促進)	
	13	マーケティング環境の分析 (SWOT分析、PEST分析、5つの競争要因)	31	コミュニケーションのマネジメント (人的販売、PRとパブリシティ、インターネット広告)	
	14	マーケティング環境の分析 (VRIOフレームワーク、コアコンピタンス、ポートフォリオ 分析)	32	チャネルのマネジメント (製品の3類型、チャネル・マネジメントの特性)	
	15	マーケティングリサーチ (データ収集、分析、考察) 環境分析における視察	33	チャネルのマネジメント (メーカーによるチャネル・コントロールの試み)	
	16	消費者行動の基本的特徴 (消費者知覚、知覚品質、知覚マップ)	34	マーケティング・ミックスの統合 (プッシュ戦略、プル戦略、組み合わせから統合へ)	
	17	マーケティング環境をふまえた消費者理解 (ブランド・カテゴリーゼーション、考慮集合サイズ)	35	マーケット志向まとめ Market-Oriented	
	18	消費者行動の規定要因	36	顧客志向まとめ Customer-Oriented	
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	学期ごとに成績送付	
	学習態度・出席率	50%			
	レポート		成績評価	出席80%以上 S90~100点、A80~89点、B70~79点、 C60~69点、D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>30% R<<実働実践型学習>>70% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>70%				
講師プロフィール	米国・欧州で長い伝統を誇るグローバル不動産企業にてヘッド・オブ・マーケットリサーチ・ジャパンを務めた。不動産市場アナリストとしてマーケット・レポートやセミナー登壇を通して、グローバル投資家などの顧客に積極的に情報発信することでマーケティング活動を支援した。マーケットに対する見識や知見に対して好評価を得ていた。加えて、日系建設企業にてプロジェクト・マネージャーとしてマーケット志向のナーシングホームを立ち上げた実績もある。				

シラバス

科目名	保健体育講座Ⅲ		担当者名	町田 秀樹	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必選	授業時間数	72時間
開講学年	3学年	必・選			
授業目的	安全な運動指導をするための基本的な知識。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	基本的な体の知識を知ることは安全な運動指導をするうえで大切なことです。怪我を防ぎ命を守るための知識になるようにする。また、正しい成長と機能向上を手助けするための基礎知識を深める。				
授業概要	基本的な解剖学を学ぶことで指導の幅が広がるようにする。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	人の動きの常識を疑ってみる	19	運動を抑制する内分泌系の基礎①	
	2	人の真直ぐについて考える①	20	運動を抑制する内分泌系の基礎②	
	3	人の真直ぐについて考える②	21	運動と内分泌系	
	4	安全な動作について考える	22	生体を防御する免疫系の基礎	
	5	骨格筋の形状と収縮のメカニズム	23	運動と免疫系	
	6	筋運動と筋線維タイプ	24	運動を維持する呼吸器系の基礎	
	7	骨格筋の筋力発揮特性	25	運動時の呼吸循環系の応答とトレーニングによる呼吸循環系の適応	
	8	骨格筋の適応と変化	26	健康と運動・体力の理解	
	9	神経系の生理学的基礎	27	運動と水分摂取	
	10	運動と神経系	28	スポーツとドーピング	
	11	トレーニングと神経系	29	人体の基礎的機能①	
	12	解剖学とバイオメカニクスをつなげる①	30	人体の基礎的機能②	
	13	解剖学とバイオメカニクスをつなげる②	31	エネルギー生産	
	14	再び安全な動作について考える	32	タンパク質・脂質のエネルギー産生	
	15	マッサージの体験から実際の骨格を感じてみる	33	復習	
	16	復習	34	復習	
	17	復習・まとめ	35	確認テスト	
	18	確認テスト	36	前期・後期の総まとめ	
成績割合	テスト	70%	学習FB方法	学期ごとに成績送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート		成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>80% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	2002年より整体業の店を開業しています。ほとんどの痛みは1回の施術でとるとの評判があります。著書に「できる人はなぜ、そこまで姿勢にこだわるのか」が翔泳社から2015年3月に出版されています。				

シラバス

科目名	保健体育科指導法Ⅲ		担当者名	蛭間 龍矢	
学 科	教育専攻科保健体育教諭1種コース		授業方法	講義	
認定単位	4単位	開講期	必修	授業時間数	72時間
開講学年	3学年	必・選			
授業目的	主体的・対話的な指導法の獲得				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい」から主体的に動き、学ぶ ・授業づくりの基礎となる「関係性の質」を学び、授業デザイン技術を理解する ・授業コミュニケーションを中心とした授業の設計ができる ・授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる 				
授業概要	指導、プログラム運営、ワークショップを行う上では必ず人と人が関わります。そのような個々もしくは集団が共に活動を共有する場で、指導者側として知っておくことで目的としている伝えたい事がより伝わる考え方を体験し実践します。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション1	19	後期ブリーフィング	
	2	オリエンテーション2	20	生徒模擬授業準備	
	3	オリエンテーション3	21	生徒模擬授業①	
	4	アイスブレイキング・アクティビティの体験	22	生徒模擬授業①生徒模擬授業①	
	5	アイスブレイキング・アクティビティの体験	23	生徒模擬授業①	
	6	デザインヒビタイザー・アクティビティの体験	24	生徒模擬授業①	
	7	デザインヒビタイザー・アクティビティの体験	25	生徒模擬授業①	
	8	コミュニケーション・アクティビティの体験9	26	生徒模擬授業①	
	9	コミュニケーション・アクティビティの体験	27	生徒模擬授業②	
	10	イニシアチブ・アクティビティの体験	28	生徒模擬授業②	
	11	イニシアチブ・アクティビティの体験	29	生徒模擬授業②	
	12	トラスト・アクティビティの体験	30	生徒模擬授業②	
	13	トラスト・アクティビティの体験	31	生徒模擬授業②	
	14	スポーツでの応用①	32	生徒模擬授業②	
	15	スポーツでの応用②	33	ふりかえり	
	16	スポーツでの応用③	34	確認テスト・まとめ1	
	17	スポーツでの応用④	35	確認テスト・まとめ2	
18	スポーツでの応用⑤	36	確認テスト・まとめ3		
成績割合	テスト		学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	70%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P≪課題解決型学習≫50% R≪実働実践型学習≫20% A≪主体的参加型学習≫20% G≪海外体感型学習≫10%				
講師プロフィール	株式会社を経営し、年間約70校の学級形成、キャンプ実習、グループワークなどのプログラムを提供しています。専門領域は「スポーツ社会学」「遊び」				